

2021年8月17日

松本市長 臥雲義尚 様

オリンピックの中止を求める松本の会
感動のパラリンピックを考える会

わたしたちは
松本市でのパラリンピック・フランス選手団合宿の
中止を求めます

暑いなか、激務に就いておられる市長さん、関係の皆様のご健康が支えられることを願いつつ、わたしたちの会の主張に耳を傾けてくださいますように。

コロナ禍のなかで、2021年の東京オリンピックが閉会いたしました。続いて24日からのパラリンピックが開催されようとしています。

わたしたち「オリンピックの中止を求める松本の会」「感動のパラリンピックを考える会」は、「オリンピック・パラリンピックの中止」の声を挙げるために、この2ヶ月間程、松本駅前ではスタンディングをしております。

また、わたしたちは去る7月10日、「感動のパラリンピック！にオブジェクション!!(異議あり)」の集会を持ちました。そこでは、23年前「長野パラリンピックを考えるシンポジウム(1998年3月8日開催)」の際に話し合われたことに心動かされ、今回その趣旨を参加者全員と再確認いたしました。

「より速い人が、より強い人が、より美しい人が世界規模で賞讃されることは、同時に、よりダメな人、より劣った人を発見し、その序列の最下層に位置づけ固定することに他ならない。

能力主義による人間の序列化は、人間を選別し、人と人との関係性を分断する。オリンピック・パラリンピックでの「愛」や「感動」に問いを向ける必要があるのではないか。」

その問題意識は20年以上経った今も、問い続けるべきではないでしょうか。そう、強く思います。自分自身を、他者を、本当にかげがえのないものとして大切にできる、そんな生き方、社会のあり方を考えていきたいと思えます。

「障害者」たちは、パラリンピックとは関係のないところで、自然発生的にスポーツを含む様々なことを工夫しながら楽しんできました。共生共学の空間のなかでは、「障害」のある子ども、ない子どもが知恵を出しあい、一緒に行ってきたことを見聞きしてきております。

パラリンピックと「障害者」スポーツの称揚は、スポーツ以外のことを行っている人々の姿を見えなくさせてしまうのではないのでしょうか。「障害者」にとって、ライフラインの保障と整備こそが必要であることを、今回の集会を通して強く認識するところとなりました。

この度、松本市は政府に同調して、パラリンピック自転車競技に出場するフランス選手団の事前合宿を受け入れることになりました。その態勢が整った時点ではありますが、わたしたちは「中止」を要望します。

わたしたちの町で「障害者」はいま、どんな暮らしをしているのでしょうか。コロナ禍で生活がいつそう苦しくなっていないでしょうか。パラリンピックのための膨大な予算は、わたしたちがこの町で一緒に暮らすそうした「障害者」の支援にこそ、緊急に当てるべきではないのでしょうか。わたしたちはこうした疑問を打ち消すことができません。

そしてまた、パラリンピックが開催される予定の東京をはじめ、全国的なコロナ感染の拡大のなかで、松本市も警戒レベルが5になっており、連日20～30人の感染者が出ています。オリンピックの開催と感染の拡大に、すくなくとも間接的なつながりがあることは否めません。また、パラアスリートのなかには基礎疾患を持つ、感染リスクの高い人もいます。

さらにこの度の大雨による土砂崩れなどに警戒すべき現在、山間地での公開練習の見学や応援を市民に呼び掛けることは、慎むべきではないでしょうか。

すべての人の生命、健康、安らかな暮らしのために、わたしたちはパラリンピックの、そして松本市でのフランス選手団合宿の中止を求めます。

すでに選手の受け入れや練習が進んでいる段階でのこの申し入れは、遅きに失したことを承知しておりますが、やむにやまれぬ思いでお届けいたします。どうぞご一考くださるようお願い申し上げます。

オリンピックの中止を求める松本の会

連絡先: 沢村 1-14-30-603 鵜飼 哲(電話 0263-88-7907)

感動のパラリンピックを考える会

連絡先: 三才山1285 橋本 和子(電話 0263-46-2859)

以上